

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム ともだちの家		
所在地	滝川市西町2丁目3番47号		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりを大切にし、いきいき百歳体操を通して地域にも貢献していきたい。利用者のできる事を探し、利用者様の支えとなれる様にコツコツ取り組んでいき、一緒に喜びを分かち合え、笑顔があふれるホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0177500204-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年8月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ともだちの家」は、家族や地域・ボランティアの協力により、家庭的でゆったりとした雰囲気のある場所となっている。利用者の家族が主催する「歌会」があり、家族の伴奏により一緒に歌ったり、音楽を楽しんだり、口腔体操をしたりして毎週楽しく続けている。滝川市が推進する「いきいき百歳体操」はホームのリビングを提供し、地域の方も自由に参加されている。地域の方が訪れる事で、利用者との挨拶を交わしたり、日常会話の中で交流する機会となっている。今年は滝川市のイベント行事である「紙袋ランターン」を利用者と一緒に作成し、グループホームの周りに展示する事で、地域の方と灯りを楽しむ機会となっている。ホーム内の壁には、ボランティアの方が季節の変わり目ごと、絵画、絵手紙、短冊などの作品を掲示し、利用者・訪問者の目を楽しませてくれる。食事の支度は、毎日冷蔵庫の中を見て「今日は何にしようか」と利用者と一緒に考え調理している。一人ひとりの嗜好や、食べ易さへの配慮も行い、家庭的な雰囲気の中で楽しく職員と一緒に食事している。管理者は職員教育や研修受講が、ケアの質の向上・仕事のやりがいに繋がると理解し、多くの機会を検討している。管内に在住する医師である講師に依頼し、福祉事業所が数力所合同で研修を開催する計画が進行中である。利用者や家族にとって安心して住みやすいグループホームとなるように、そして質の高いケアが出来るよう前向きに支援しているところである。

V. サービスの成果に関する項目(ユニットIアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の運営理念を作り、朝のの申し送りで唱和し、共有し実践につなげている。	各ユニットに事業所独自の理念が掲示され、毎朝唱和している。5項目からなる理念は、利用者にとってホームが、安心の居場所となるように謳われている。日常の笑顔や、やりたい事が続けられている姿を見て、理念が実践に繋がっていると職員は感じている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流を深められる様に町内行事への参加、ホーム行事への呼びかけ、いきいき百歳体操の会場としてホームを開放し、交流している。	開設して10年が経過し、滝川市が推進する「百歳体操」の継続、運営推進会議の協力、災害時の協力体制等が地域に根付いている。今年、滝川市のイベント「紙袋ランタン」を地域の方と一緒に作成し、ホームの周辺に飾り楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れの他、ともだちの家便りを家族に郵送し、実践を見て頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各団体から無理のない範囲で参加いただき、利用者も参加して実践報告や意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	2か月に一度の開催が年次計画で定められ、認知症家族の会、町内役員、民生委員、市・包括職員、家族、知見者、職員が参加している。現状報告やイベントの案内、議題についての話し合いが行われ、サービスの質向上に活かしている。欠席者には議事録を配布し、情報の共有にも努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の開催の事業所会議や研修にも参加したり、グループホームの担当の職員とは何かあれば都度相談等をし、関係が築ける様にしている。	管理者は、担当者の所に直接出向き、相談や問合せをし連携をとる事で信頼関係を築いている。市から送られる申請書類を仲介し家族へ手続きの支援をしている。滝川市ネットワーク会議が2か月毎開催され、医療機関や福祉関係者との情報交換や勉強会に参加している	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみ行う。日中は玄関にセンサーを取り付け、察知できる様に配慮している。スタッフ会議等でも身体拘束について学ぶ機会を設け、実践につなげている。	身体拘束をしないケアに努め、マニュアルを用意し内部研修を行ったり、外部研修に参加し伝達報告する事で、職員の身体拘束に関する内容を確認している。止むを得ず、生命の危険にさらされた事例があった時に、家族と十分に話し合い、経過観察と記録、期間の設定で取り除く取り組みを続け、期間後に終了している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会への参加し、その学びを皆に反映できる様にしており、防止に努めている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加し、必要時には制度を活用していきたい。以前は制度を活用支援していた方がいました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学をして頂き、不安や疑問等を尋ね納得した上で契約している。契約時にも事前に書面を渡しじっくり目を通して頂いたり、柔軟に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内はするがなかなか参加して頂けないのが現状である。日常会話等から意見の把握に努め、要望があれば機会を設定し行う姿勢でいる。	家族の面会が頻回にあり、管理者から日常の様子や健康状態を報告し、要望を聞く機会としている。何でも話せる関係作りに努め、家族の意見や要望が運営に反映出来るようにしている。今後は、ホーム側からより細かな利用者の様子が伝えられるように、一人ひとりに向けた通信の発行を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を設け、意見があれば話し合える場は設けており、何かあれば反映させられる様に努力している。	毎月のスタッフ会議は、職員と夜勤で出席出来ない職員を対象に2度行い、担当制はないが全員が利用者について気付きや状況を報告する場面がある。オーナーは毎日来て、職員と会話する事で関係を大切にしている。管理者・リーダーの総評で、人事評価の仕組みもあり、オーナーが確認する事により昇給に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト、有給希望の受け入れ、休憩室等の環境整備もし、柔軟な対応ができる様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリアに応じて研修を受ける機会は確保しており、時にはスタッフ会議や個別にアドバイスし、トレーニングを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームのお祭りに参加したり、逆に招いたり、研修会にも参加し、交流の機会は設けている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、フェイスシートを作成し、皆が目を通しておくようになっている。本人の話を聴き記録に残し、皆で情報共有し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、話をよく伺い、よりよい関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方とは都度相談しながら様子を見て協力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方とは日々笑ったり、励まされたりと支え合う関係を保てる様努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に近況を伝えたり、家族の方にできる限り歩調を合わせ、情報共有し、協力関係を保てる様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活習慣をできる範囲で尊重し、知人が訪ねてこられたり、なじみの場所に行けるように支援に努めている。	家族の面会も多くあり、家族との関係を大切にしている。美容室の利用は以前からの馴染みを継続し、直接出かけたり訪問にも繋げている。絵の好きな方が現在も続けていたり、手芸や掲示物に興味のある利用者が手作りしたりして、特技が発揮できる支援をしている。ホーム農園の収穫は直接関わり、食卓に上がる事で会話に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の状態を見極め、利用者同士が良い関係を保てる様に見守り、声掛けに努めている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も偶然に家族に会う事もあり、積極的に挨拶を交わし、情報を得る事もあり、見守ったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向に添える様にカンファレンス等も活用している。	開始時の基本シート、認定調査票のコピー、医療情報、利用者の様子、家族の意見等をもとに毎年アセスメントを繰り返している。表現出来ない利用者については、家族の要望・職員が記入する「私の姿シート」を活用し、利用者の気持ちに近づけるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査等の資料を見て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを活用し、生活リズムの把握に努めている。変化があればその都度対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でケアカンファレンスを行い、意向や意見を出し合い、介護計画の作成をしている。ご家族には説明し、同意を頂いている。	ケアマネージャーと職員は、見直し時期に合わせ全員でモニタリング、「出来る事出来ない事シート」「判る事判らない事シート」「私の姿」に記入し利用者本位になるように検討している。特に理念にある「できない事を数えるよりも…」の項目を計画に反映し、利用者の自立支援に役立てている。	介護計画の目標がより明確になる事で、日々の記録がモニタリングに活かされる。職員の支援内容が記録にならないように、利用者の短期目標が今日どうだったかを記入する事で、職員一人ひとりが利用者に対しての気付き、利用者がどうしたいのかを次期計画に反映出来る事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、情報共有に努めており、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により、柔軟に対応できる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事への参加や市の薦めている体操の会場にしたりして、交流を図り、楽しむ事ができる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	引き続きかかりつけ医に受診できる様に、個別の受診ノートを用意したりして、医者と連携が図れるように支援している。	基本的に家族が受診対応している。受診時にはホームで作成している「受診ノート」を持参してもらい医療機関と連携が取れるようにしている。家族から報告を受けたり、直接医療機関に問い合わせる事もあり、情報を確実に収集している。緊急の場合はホームで対応し、家族にも連絡している。	

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、24時間体制の電話相談、週1回の訪問を確保し、適切に相談等ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに介護添書で情報提供し、早期に退院できるように病院関係者と密に連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しているが、穏やかな日常の中で漠然としてきている部分もある。徐々に衰える中で家族とはその都度話し合っている。	ホームでは医療機関との調整が出来ず、終末期ケアの対応はしていない。ホーム案内で「最後の時まで居られるのだろうか?」の項目に、ホームで出来る最大のケア内容・対応を記載し、入居時や利用中にも説明している。悪化が見られた利用者に対しては、その後の対応も家族と一緒に検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、スタッフは消防署にて心肺蘇生法等の研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練の実施、そのうち1回は町内役員も参加して頂き、実際に見て頂き、徐々に協力体制を築けるように努めている。	年2回夜間想定も含め、避難訓練を行っている。運営推進会議時に避難訓練を行い、町内の方の参加もあり、避難した利用者の見守りに参加してもらっている。実情を見学する事で町内からは、何時でも声かけしてほしいと話されている。雪害対策で冬期間は、職員の早出を調整した配置をしている。	想定外の災害が発生する昨今、準備や対策を行う事は無駄になる事はなく、雪害や停電、火災・台風、水害様々な災害について検討を続ける事が大切である。地域の協力要請や緊急時避難場所の周知を、家族にも確認する事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護に配慮し、プライバシーに配慮した声掛けを心掛けている。	名字で声かけする事を基本とし、家族と相談し利用者が望まれる名称で支援する時もある。プライバシーを大切に、一人ひとりの尊厳を保持する心で関わっている。気付いた時には、職員同志が注意し合える関係を目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人で外出する利用者には付き添ったり、本人が希望を表したり自己決定できるように声掛けに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで過ごせる様に見守り、希望に添えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身なりを尊重しつつ、支援が必要な方には季節感等を大切にしながら支援している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度、片づけ等でできる範囲で利用者と共に行い、献立にも意見を反映できる時はしている。	まとめ買いで保存されている冷蔵庫の中を見て職員は、今日の朝食、昼食、夕食を考え、利用者の嗜好や季節感の出るメニューを考えて調理している。リビングの傍の厨房では利用者とメニューの話をしたり、食欲を誘う匂いを感じながら出来る事は手伝ってもらい、会話も楽しみながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はチェックシートを使用し、把握して工夫しながら確保する様にしている。食事量も必要時はチェックして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、介助の他、保健センターの歯科衛生士に来て、見て頂く事もある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、声掛けや誘導を行い、失敗を減らすよう自立に向けた支援をしている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを理解し、声かけ誘導を行っている。自宅の排泄環境が悪い為、適切な排泄が出来なかった利用者が、入居により自立排泄に改善した事例や、身の回りの清潔が保てない利用者がホームの生活リハビリの支援により、自覚とパットの減少に繋がった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し、食材の工夫もしている。時にはかかりつけ医と連携をとり、下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2~3日にタイミングを見て声掛けを行っている。午前と午後とおおまかに時間を分け、時間の希望も添える様に努力している。	週2回は入浴出来るようにそれぞれの要望に応える支援を行っている。毎回お湯を入れ替える事で気持ちよく入浴し、仲の良い利用者が二人で入る事もある。拒否傾向の利用者には巧みな声かけで誘い、回数や身体状況に合わせたシャワー浴、寝る前を希望する場合にも応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、自由にくつろいだり休息できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は個別ファイルに保管し、いつでも目を通せるようにしている。薬チェックシートを活用し、服薬チェックに努め、不明な点は薬局等と連絡を取り合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意、不得意を把握し、力が発揮できる様にしている。ここに合わせスキニップを取ったり、寄り添ったり、歌番組を掛けたり配慮している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の状況に合わせながら散歩やドライブ等を少しずつ出かけられる様にしている。歩行状態を見て、ホーム内、隣のユニットへ歩いて頂いたりする事もある。	事業計画があり、花見・町内運動会・他グループホームの祭り参加・滝川市文化祭見学等予定している。町内と共に参加するイベントも多くあり利用者はその機会を楽しみにしている。近隣散歩時の挨拶や、会場となっている「百歳体操」は参加される方との交流のきっかけとなり、外に出て会話を楽しむ姿もある。所有の車が限られている事で、大勢で出かけられない事が課題となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力量や家族と相談したりして金銭の取り扱いをしている。事務所で預かり金は希望時は確認できる様に配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、使用できる様にしている。必要時は介助している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやベンチを設置し、いつでも休める様配慮している。お雛様やクリスマスツリー等を飾るほか、ボランティアの協力により季節感のある絵等を飾り、季節感を感じられる様工夫している。	リビングには食卓とソファが多く配置され、利用者は思い思いの場所でゆったりと過ごしている。各ユニットは設えも違い、小上がり、電子ピアノ、装飾の違い、ボランティアの方が季節ごとに提供してくれる絵手紙、短冊、絵画が訪問者・利用者の目を楽しませてくれる。渡り廊下からは、ホームの菜園が見え収穫を楽しみに待っている。室温や湿度等も配慮し、清潔を心がけ暮らし易さに気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを設置し、思いのままに休める様に工夫している。自室でも思い思い過ごせる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなじみの物を持参して頂く様にしている。本人に合った自由な空間づくりに家族と相談しながら行っている。	各ユニットの居室は、建設時期の違いもあり広さや設えが違い、工夫をしながら利用者が安心して暮らせるようにしている。大きなクローゼットが設置され、多くの衣類や自分の物が持ち込まれている。家具の自由な配置、壁には家族の写真・作成した作品を掲示する事で、その人らしさが感じ取れ、安心して暮らせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりも設置し、バリアフリー等の環境作りはしている。迷う方へトイレまでの矢印やべんじょ等の表示の工夫もしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム ともだちの家		
所在地	滝川市西町2丁目3番47号		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニットⅠ」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0177500204-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年8月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(ユニットⅡ アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念を唱和し、共有、意識づけ、実践に繋がられるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にも加入し、いきいき百歳体操の会場としてもホームを開放し、町内行事にもできるだけ参加して交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れの他、百歳体操に来て頂いた方に利用者の対応を通じて実践を見ていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告や話し合いの他、行事や避難訓練にも参加して頂き、実際に見て頂いて意見を頂く機会も設け、サービス向上に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の開催の事業所会議や研修にも参加したり、グループホームの担当の職員とは何かあれば都度相談等をし、関係が築ける様にしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを付けて夜間以外は玄関の施錠はせず、行動を把握できる様に努めている。禁止の対象となる様な具体的な行為の把握に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修には参加し、スタッフ会議を通して学びを反映させられる様にしている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者には制度を活用していた事もあったが、現在は該当者はいない。しかし、活用できる様に機会があれば研修の参加もしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が担当となり、入居や退居の際には十分な説明をし、理解、納得頂いている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内はするがなかなか参加して頂けないのが現状である。日常会話等から意見の把握に努め、要望があれば機会を設定し行う姿勢でいる。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改めての機会は設けてはいないが、日常会話やスタッフ会議等の機会を活用し、把握に努めて反映できる様に努力している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、勤務希望、休憩等、融通するように努めており、休憩室も確保されている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせ研修への参加の機会は確保されている。日常的にアドバイスしたりと、働きながらのトレーニングは意識している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の主催の会議や研修への参加をし、同業者との交流の機会は設けるようにはしている。			

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能であれば事前にホーム見学していただいたり、事前面談を行い、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、要望等も聞き取り、職員で情報共有し、できる限り希望に添うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方とは都度相談しながら様子を見て協力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にならないように、食事、掃除等を一緒に行いながら支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に様子を伝え、協力しながら共に本人を支えるような関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得たり、可能であれば時には職員が付き添ったりして支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や利用者同士の関係性を大切にし、見極め、孤立しないように声掛け見守りをし、関係を支えるようにしている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も偶然に家族に会う事もあり、積極的に挨拶を交わし、情報を得る事もあり、見守ったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でさり気なく意向を把握するよう努め、困難な場合でも一言だけでも答えて頂くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人生活歴等をまとめたファイルに目を通し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの他、3か月に1度のアセスメントやモニタリング等も活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で3か月に1度モニタリング、ケアカンファレンスを行い、家族とは担当者会議を実施し、意見や意向を反映し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録とケアプランを連動させ、ケアカンファレンス、モニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時の状況変化により、その都度、柔軟に対応できる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会やボランティア等を活用しながら、行事等に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に引き続き通える様、主治医とも連携取れる様に受診ノート等を活用し、受診の支援をしている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をし、週1回の訪問と24時間体制の電話相談を整えて活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに介護添書で情報提供し、早期に退院できる様に病院関係者と蜜に連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しているが、穏やかな日常の中で漠然としてきている部分もある。徐々に衰える中で家族とはその都度話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、スタッフは消防署にて心肺蘇生法等の研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練の実施、そのうち1回は町内役員も参加して頂き、実際に見て頂き、徐々に協力体制を築けるように努めている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、言葉遣い等にも気を付け、その人その人に合った声掛けに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に希望を聞き、自己決定できる様にしている。その人に合わせ、選択方式の質問をしたりもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースに合わせて対応できるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分できない方でも職員と一緒に服を選んだり、整容の支援をしたりして、その人らしくできる様に努めている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや片づけ等、無理のない範囲で行って頂き、時にはメニューの一部を一緒に考えたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材や盛り付け、調理法の工夫の他、水分摂取のチェックをして、時間帯や量や形状の工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや介助を行っている。拒否等で困難事例へは保健センターの歯科衛生士の協力を得て訪問して頂いたりもしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンや傾向をチェックし、なるべく失敗のない様に声掛け、工夫を行い、自立へ向けてサポートしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルトの提供の他、水分摂取量の把握、確保、個々に合わせ冷乳や主治医との下剤等の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前と午後と時間帯を大まかに分け、タイミングの良し悪しや希望に添える様配慮。仲の良い利用者と一緒に入浴を楽しめるようにも支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転に配慮しながら、日中でも身体を休められる様に配慮し、夜眠れない、不安のある方へは話を聞いたり寄り添えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内容を把握し、薬チェックシートを活用し、確認に努めている。分からない事は医師や薬剤師、訪問看護とも連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌やカルタ等、気分転換できる様心掛けている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって可能な範囲で支援している。散歩が難しければ玄関前のベンチで休んだり、少人数に分かれてドライブをしたり努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所の預り金は希望時は確認できる様にしており、どうしても持ちたたい人は家族と相談対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、いつでも使えるように十円だまを用意しており、必要時は支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ボランティアの協力により、季節感のある絵の展示やホームでもクリスマスツリーやお雛様等の飾り物も飾っている。様々な箇所に手すりも設置し、混乱を招かない様に都度対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを多めに設置し、思い思いに過ごせる様に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、使い慣れた物、好みの物の用意を心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり等設置し、安全面に配慮。		

目標達成計画

事業所名 グループホームともだちの家

作成日：平成 26年 9月 11日

市町村受理日：平成 26年 9月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	日常の介護記録を記入する様式として、本人の日々の様子がよく分かり、ケアプランに添った内容で介護できる様にと様式の設定をしていた事もあり、短期目標等の評価する部分がないので、介護記録の記入の様式の検討の必要がある。	日常の介護記録の記入の様式を見直し、短期目標等を意識していく事で、日々の介護記録に反映していき、モニタリングにも活かされるようにしていきたい。	他施設の管理者と意見交換やアドバイスを頂く。グループホーム同士の見学交流会の機会を利用し、見学に行った先で、介護記録についての勉強をしていく。	平成26年 12月末迄
2	26	同上	同上	各スタッフで持ち帰った介護記録についての勉強内容をもとに、ホームで使用する介護記録の様式を検討、変更していく。	平成27年 8月予定
3	35	現在、水害や地震については話し合い、対策を行ってきたが、停電に対する対策は十分ではなかった。又、災害時の避難する場所の周知は、入居者が変わった事で、家族も変わっている為、周知できていなかった。	停電時の対策について、改めて話し合っていく必要がある。又、災害時の避難場所の周知を改めてしていく。	スタッフ会議の議題として取り上げ、対策を話し合っていく。又、各ご家族に災害時の避難場所の周知をすべく、ともだちの家便りに記載したりして周知していく。	平成26年 12月末迄
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。